

## 1. 2010年11月23日以降の主な経過

### ■23日の主な動き（朝日新聞社ウェブサイトより）

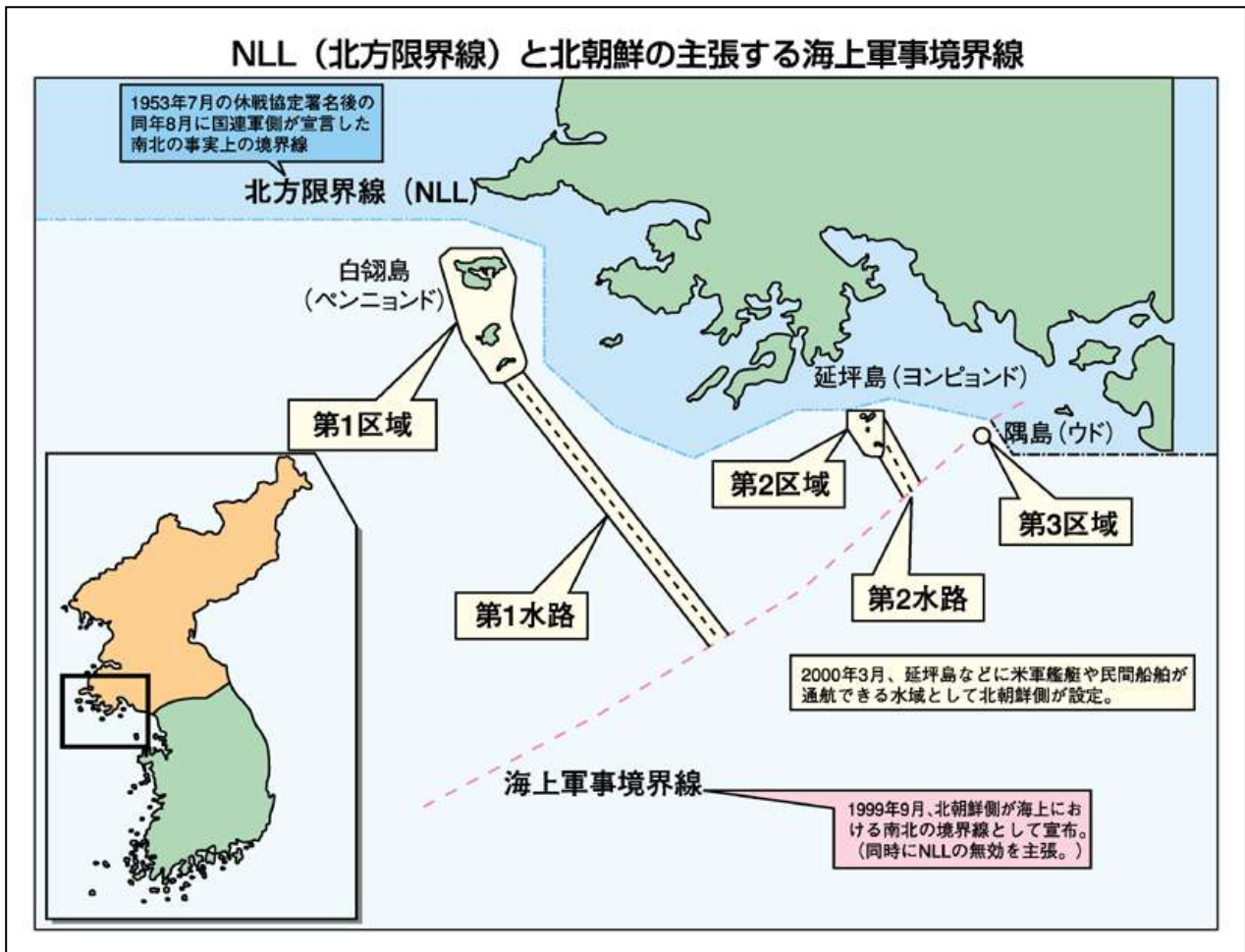
- 8 : 2 0 北朝鮮、韓国軍の現場海域での演習中断を求める通知文を発送
- 1 4 : 3 4 北朝鮮軍が砲撃開始
- 1 4 : 4 9 韓国軍が対応射撃
- 1 4 : 5 0 韓国軍、周辺海域に対して、北朝鮮軍の局地挑発に備えた最高度の防衛準備態勢「珍島犬1」を発令
- 1 4 : 5 5 北朝鮮軍の砲撃やむ
- 1 5 : 0 1 韓国軍が2回目の対応射撃
- 1 5 : 1 0 北朝鮮軍が2回目の砲撃
- 1 5 : 2 5 韓国軍が3回目の対応射撃
- 1 5 : 4 1 北朝鮮軍の2回目の砲撃やむ
- 1 5 : 4 8 韓国軍、挑発中止を求める通知文を発送
- 1 6 : 3 5 李明博大統領が外交・安全保障関係閣僚会議を開催（～21：50）
- 1 6 : 3 6 韓国行政安全省が全国家公務員に非常待機令
- 1 8 : 0 6 韓国大統領府が政府声明を発表
- 1 8 : 4 0 韓国軍合同参謀本部が記者会見
- 2 0 : 3 0 金星煥外交通商相が在韓日本大使に状況説明
- 2 0 : 3 7 李大統領が合同参謀本部を視察

### ■11月24日以降の軍事的な動き

- 11月28日～12月1日 米韓合同軍事演習実施  
→原子力空母「ジョージ・ワシントン」も参加
- 12月3日～ 日米合同軍事演習開始（韓国が初のオブザーバー参加）
- 12月6日～ 韓国が陸海空軍合同で対北朝鮮軍事演習を開始

## 2. 今回の事件の背景とは

### ●「北方限界線（NLL）」とは？



（『防衛白書』2002年度版より）

### ●朝鮮戦争停戦協定（1953年7月27日署名・発効）

（「Guerilla Net Korea」ウェブサイトより転載。下線は引用者による）

#### 第2条第13項

2) 本停戦協定が効力を発生した後 10 日以内に相手方の朝鮮における後方と沿海諸島及び海面から彼らの全ての軍事力補給物資及び装備を撤去する。万一双方が同意しまた撤去を延期する妥当な理由なく期限が過ぎてもこのような軍事力を撤去しない時には、相手方は治安を維持するために彼が必要と認める如何なる措置でもとる権利を持つ。上記の沿海諸島という用語は、本停戦協定の効力が発生する時にたとえ一方が占領していても 1950 年 6 月 24 日に相手方が統制していた島を指すものである。ただし、黄海道と京畿道の道境界線北方と西方にある全ての島で、ペクリョン島・大青島・小青島・延坪島及び牛島(省略以上各道諸の北緯・東経)の国際連合軍総司令官の軍事統制下に残す道諸郡を除くその他全ての島は、朝鮮人民軍最高司令官と中国人民志願軍司令官の軍事統制下に置く。朝鮮西海岸において、上記境界線以南にある全ての島は国際連合軍総司令官の軍事統制下に残す。

●『大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国両国関係の研究』26 ページより

(小野田求著／明石書店／2005 年)

「朝鮮戦争休戦協定」は、すでに論じたように、南北朝鮮両国家間の実効支配領域の境界線を陸地については定めた。しかし、海上については定めなかった。

休戦協定は、海上に関して、島嶼の帰属は、一般的に、当該島嶼の陸地との従来の歴史的関係を重視して決めた。しかし、本来ならば北朝鮮に帰属することになるはずの西海(日本語名称 黄海)五島、すなわち、北朝鮮本土近くの南方を東西に点在する白翎島・大青島・小青島・延坪島(大延坪島と小延坪島)・隅島の五箇島は、国際連合軍、南朝鮮の実効支配領域とした。そのさい、これらの五島間の海上線、ひいては西海における海上境界線一般についてはまったく定めなかった。ところが、休戦協定締結直後の一九五三年八月三〇日に、国際連合軍、南朝鮮は、一方的にこれら五箇島の北方に東西にわたって「北方限界線(N・L・L=Northern Limited Line)」を設定し、これを西海(黄海)における南北朝鮮両国家間の実効支配領域としてしまった。北朝鮮はこれに強く反対した。(中略)

こうして朝鮮戦争後、西海(黄海)と東海(日本海)の海上境界線をめぐって、南北朝鮮両国間に、論争や武力衝突が発生するおそれがあったのである。

●今年に入ってから米韓合同軍事演習の経過

(朝鮮新報ウェブサイト参照)

2010年3月	「キーリゾルフ」「フォールイーグル」合同軍事演習 →韓国の「天安」号沈没事件が発生(26日)
7月25日～28日	史上最大の連合海上訓練 →原子力空母「ジョージ・ワシントン」も参加
8月16日～26日	「乙支フリーダム・ガーディアン」合同軍事演習
9月27日～10月1日	連合潜水艦訓練
10月13日～14日	大量破壊兵器拡散防止構想(PSI)訓練(釜山沖) →日本の自衛隊も参加
10月15日～22日	大規模な連合空中戦訓練
11月22日～	韓国軍、陸海空軍による全国的規模の軍事演習「2010 護国」を開始 →23日に「延坪島事件」が発生

### 3. まとめ

- 朝鮮戦争後、米国によって一方的に引かれた軍事境界線の存在
  - 朝鮮半島周辺海域の軍事的緊張がもたらされ、いつ衝突が起きてもおかしくない状況である
  - 実際、1999年、2002年、2008年と度重なる交戦が発生
  
- 米韓によって繰り返された軍事的戦争挑発
  - 2010年に入ってからだけでも、7回にわたって合同軍事演習が展開された。
  
- 日本政府による、朝鮮高校の無償化手続の停止
  - 関係のないはずの外交問題を教育に持ち込む、道理のない行為
  - 日本でも批判の声があがっている（資料参照）。

以 上

## ■ 資料 1 (朝鮮民主主義人民共和国側の見解 (朝鮮新報ウェブサイトより))

### 南による西海での北側領海砲撃 北 相次ぎ立場を表明

#### 「今後も侵犯には対応」

朝鮮人民軍は23日、朝鮮西海の延坪島一帯の北側領海に砲撃を加えた南朝鮮軍の軍事的挑発に対応して、「断固たる自衛的措置」を講じた。これと関連して、朝鮮人民軍最高司令部報道(23日)、朝鮮外務省スポークスマン談話(24日)、朝鮮赤十字会中央委員会報道(24日)がそれぞれ発表された。要旨は次の通り。

#### 軍最高司令部報道

「護国」という北侵戦争演習を行い、朝鮮半島情勢を緊張、激化させている南朝鮮軍部が、われわれの再三の警告にもかかわらず、23日午後1時から朝鮮西海の延坪島一帯のわが領海に砲撃を加える無謀な軍事的挑発を行った。

わが領海に撃ち込んだ南朝鮮軍の砲弾は、数十発に及ぶ。

今回の軍事的挑発は、いわゆる「漁船の取り締まり」を口実に、南朝鮮海軍艦艇にわが領海を頻繁に侵犯させて「北方限界線」(NLL)を固守しようとする悪辣な企図の延長である。

祖国の領海を守っているわが軍隊は、南朝鮮軍の軍事的挑発に即時かつ強力な物理的攻撃で対応する断固たる軍事的措置を講じた。

挑発者の発砲を無慈悲な鉄ついで治めるのは、わが軍隊の伝統的な対応方式である。

今後も、わが軍隊は南朝鮮軍がわが祖国の領海を0.001ミリでも侵犯するなら、ちゅうちょせず無慈悲な軍事的対応攻撃を引き続き加えることになる。

南朝鮮軍は、空言を言わないというわが軍隊の嚴重な警告にしっかり留意すべきである。

朝鮮西海には唯一、われわれが設定した海上軍事境界線だけが存在するであろう。

#### 外務省代弁人談話

南朝鮮軍が悪名高い北侵戦争演習である「護国」軍事演習を繰り広げるとともに、延坪島で大砲の実弾射撃を計画したことについて、わが軍隊は北側領海に一発の砲弾でも落ちる場合、即時、対応打撃を加えると数回にわたって警告した。

事件当日である23日午前8時、北南軍事会談北側団長は、南側の団長に、延坪島一帯での砲撃計画を中止することを再び強く求める電話通知文を送った。

にもかかわらず、南朝鮮軍は午後1時頃から延坪島で北側領海に数十発の砲撃を加える無分別な軍事的挑発を強行した。

南朝鮮に山河と海、島が数多くあるのに、よりによって肉眼でも互いに見られるわれわれの目の前の島で砲声を鳴らし、火薬のにおいを漂わせた行為こそ、高度の政治的計算が敷かれている挑発だと言わざるをえない。

南は、われわれを刺激しないために、島から南の方向に砲撃を行ったと弁解しているが、延坪島は海上軍事境界線から北側領海内に深く入った所に位置している地理的特性によって、そこで大砲の実弾射撃を行えば、どの方向に撃っても砲弾は北側領海内に落ちることになっている。

南の目的は、われわれの物理的対応措置がない場合、われわれが島の周辺水域を自らの「領海」に認めたと、世論を導くところにあった。

今回の事件は、停戦協定が締結された後の1953年8月30日、「国連軍」司令官が勝手に、一方的に引いた不法非道なNLLのために生じた。

米国とその追随勢力、一部の国際機構の当局者らは、事件の真相を把握もせずに、無鉄砲に誰かを非難しようとする悪習を直さなければならない。南朝鮮が味方だとして無原則にかばうなら、もっぱら火に油を注ぐことになるだけである。

朝鮮半島の平和と安定を重んじるわれわれは今、超人間的な自制力を発揮しているが、正義の守護者であるわが軍隊の砲門は、まだ開いている状態にある。

## 赤十字会報道

南朝鮮当局は、「挑発」だの、「よう懲」だのと言ひ散らしたあげく、11月25日に開催される予定であった北南赤十字会談を無期限延期すると宣布した。

今回、南が強行したわれわれに対する重大な軍事的挑発と赤十字会談の無期限延期発表は、対話と北南関係の改善に執ように反対し、ことごとく阻んだ南当局の下心がどこにあるのかをはっきりと示している。

北南関係を破たんさせ、対決と戦争の局面へ追い込むこのような者と、対話について論じ、和解と協力について話せるだろうか。

われわれの善意と雅量、措置によりようやく開かれた北南対話の門は、南当局によって再び閉ざされ、北南関係ははかりしれない破局に陥ることになった。

南朝鮮赤十字社が会談の無期限延期を宣布した状況のもとで、われわれもこれ以上人道問題の解決にこだわる考えはない。

南朝鮮赤十字社は、離散家族・親せきの面会正常化をはじめ人道的事業を破たんさせたことに対して全民族の前で全責任を負うべきである。

全同胞の志向に挑戦して北南関係改善の雰囲気を一朝にして踏みにじり、情勢を戦争の状態へ追い込んだ李明博政権の反民族的・反統一的犯罪は絶対に許されない。

同族対決と戦争策動で崇高な人道的事業まで破たんさせ、同胞の頭上に残酷な災難を被らせる南当局は、民族のさらなる懲罰を免れられないであろう。

[朝鮮新報 2010. 11. 26]

2010年11月29日

内閣総理大臣 菅 直人 殿  
文部科学大臣 高木義明 殿  
内閣官房長官 仙谷由人 殿

### 朝鮮学校への「高校無償化」の即時適用を求める要請書

報道等によれば、文部科学省は、朝鮮学校による「高校無償化」の申請は予定通り11月30日まで受理するが、現状では審査を「停止」することを正式に発表しました。今回の「停止」は、朝鮮半島の西海での軍事的な衝突を受けての判断だと、総理大臣、文部科学大臣、官房長官らは発言しています。従来、日本政府は「高校無償化」の適用については、「外交上の配慮などにより判断すべきものではなく、教育上の観点から客観的に判断すべき」と繰り返してきました。今回の「停止」措置は、その見解をくつがえすものです。そのことについて文科大臣は、「平和を脅かす特別な想定外の事態」に対応したのだと説明しました。しかし、これは外交的に解決すべき問題を教育の場へと転嫁する、きわめて不当な判断だと、わたしたちは考えます。

そもそも、「高校無償化」とは、「国連人権A規約の精神」にのっとり、「国籍を問わず、わが国において後期中等教育段階の学びに励んでいる生徒を等しく支援する」ためのものであると、政府は説明してきました。であれば、文部科学省が制度を適用する外国人学校を公表した4月の時点で、高校段階の課程を有する朝鮮学校は当然そのなかに含まれるべきものでした。にもかかわらず、日本政府は朝鮮学校のみを巧妙に例外扱いし、判断を引き延ばし続けました。まず専門家による検討会議が8月まで続き、次に総理大臣の指示で民主党内での議論をおこない、ようやく11月5日になって適用基準を定めた「規程」が出されたにもかかわらず、また今度は手続きの「停止」です。朝鮮学校の生徒や関係者を愚弄するにも程があります。また、これでは、仮に今後適用が認められても、情勢次第ではいつ再び適用が「停止」されるか分かりません。今回の「停止」は、現行の法令が、いつでも朝鮮学校を「狙い撃ち」できる構造を有していることを露呈させました。そしてこのような政府の一連の措置が、地方自治体の朝鮮学校に対する補助金支給見直しの機運をつくり出していることも、わたしたちは深く憂慮しています。

一体、今回の軍事衝突と「高校無償化」に何の関係があるのでしょうか。今回の日本政府の過剰反応は、日米戦争のさなかに米国で日系人らが「敵性外国人」として財産を奪われ、強制収容所に送られ、日本人学校が閉鎖された歴史を思い起こさせます。また、冷戦の緊張が深まる1949年、在日本朝鮮人連盟が「反民主主義」的な団体であるとして強制解散させられ、朝鮮人学校が閉鎖され、財産も没収された歴史をも想起させます。こうした歴史的経験や、今回の「停止」に至る一連の措置をみるかぎり、日本政府は、朝鮮学校に通っている生徒や関係者を「敵性外国人」とみなしていると考えざるを得ません。これは「人種、信条、性別、社会的身分」に由来する差別を禁じた日本国憲法ならびに国連人権規約、人種差別撤廃条約にも反する不当な措置です。

わたしたちは、日本政府に対し、朝鮮学校の生徒や関係者を愚弄しつづけたことに対して謝罪し、即刻「高校無償化」制度を適用することを要求します。

板垣竜太（同志社大学）、市野川容孝（東京大学）、鵜飼哲（一橋大学）、内海愛子（早稲田大学）、宇野田尚哉（神戸大学）、河かおる（滋賀県立大学）、駒込武（京都大学）、坂元ひろ子（一橋大学）、高橋哲哉（東京大学）、外村大（東京大学）、富山一郎（大阪大学）、仲尾宏（京都造形芸術大学）、中野敏男（東京外国語大学）、藤永壮（大阪産業大学）、布袋敏博（早稲田大学）、水野直樹（京都大学）、三宅晶子（千葉大学）、米田俊彦（お茶の水女子大学）